



九州大学

ユニバーシティ
アイデンティティ

UIハンドブック

九州大学 UI プロジェクトチーム・編

はじめに

九州大学は、印刷物や電子媒体を通じて、日々膨大な量の情報を発信していますが、これらの情報媒体には九州大学の統一したイメージが欠けているという問題がありました。そこで、こうした貴重な情報の発信者が九州大学であることが一目で分かるような視覚的に一貫性のあるイメージを与える仕組みをつくらうという機運が高まりました。

こうして2006年4月に始動したのが、九州大学ユニバーシティ・アイデンティティ・プロジェクト、略して「UIプロジェクト」です。大学院芸術工学研究院と芸術工学府に所属する教員と学生から成る「UIプロジェクトチーム」のメンバーは、シンボルやロゴタイプのデザイン、その使用のルールなどを検討してきました。

この「UIハンドブック」は、九州大学のユニバーシティ・アイデンティティの考え方やシンボルロゴの使い方のルールなどを説明した冊子です。ルールというと、とかく「何々をしなければならない」「してはならない」といった窮屈なイメージがありますが、本ハンドブックは、「こうすれば分かりやすく、美しく見える」「一貫したイメージが作り出せる」といった便利なUIノウハウをお伝えするのが目的です。

もくじ

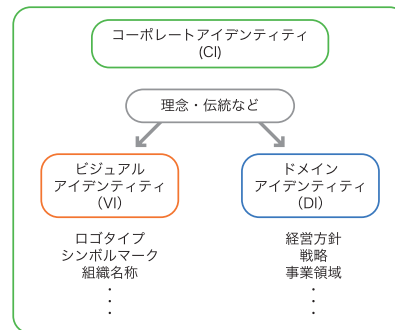
- | | | | |
|----|-----------------------|----|------------------------|
| 04 | UIについて | 38 | シンボルロゴの活用
—アプリケーション |
| 06 | シンボルロゴのしくみ | 39 | 封筒 |
| 08 | 九州大学のシンボル | 44 | レターヘッド |
| 10 | 九州大学のロゴタイプ | 46 | 名刺 |
| 12 | 九州大学のシンボルロゴ | 48 | 印刷物 |
| 22 | UIカラー | 52 | 新入生用書類ケース |
| 24 | シンボルロゴへの色の適用 | 54 | シンボルロゴ・ムービー |
| 26 | シンボルロゴの背景色 | | |
| 30 | アイソレーション | | |
| 32 | 各部署のシンボルとの組み合わせ | | |
| 35 | 小サイズ用シンボル | | |
| 36 | 印刷物でのシンボルロゴの
選択と配置 | | |

UIについて

UIとは、ユニバーシティ・アイデンティティの略語です。少子化や、国立大学の法人化など、様々な理由により、大学にも個性が求められるようになり、UIという概念が注目されています。

一方、企業では他社との差別化が必要であるため、早くからコーポレート・アイデンティティ（CI）の活動を通して自社のアイデンティティを発信してきました。企業はCIを表明する事で社会での役割や自身の個性を明確にし、社会での知名度、イメージを上げ、それを基盤としてブランドを確立、成長させました。CIは、ロゴタイプやシンボルといった、目に見える要素であるビジュアル・アイデンティティ（VI）と経営方針や戦略といった目に見えない要素であるドメイン・アイデンティティ（DI）の2つの要素によって形成されています。

UIはこうしたCIの手法を参考にしながら、発展しています。学部の新編、大学名、学部名の変更といったDIの打ち出しは旧来より行われていたのですが、近年ではそれらがさらに活発になるとともに特にロゴタイプ、シンボルの見直しやそれらの運用ルールの策定といったVIについての活動も盛んに行われるようになってきています。



日本におけるCIは1970年代に注目され、80年代に急速に浸透しました。横並みのモノを売れば生き残れた時代から他社との積極的な競争、差別化が求められる時代へ日本経済が変質していくのと歩調を合わせて日本のCIは成長してきました。

現在の国立大学は、まさにその頃の企業と同じ状況に立たされていると言えます。黙っていても学生が集まった時代は終わりを迎えつつあり、今後は他大学との競争、差別化によりいっそうの努力が必要となるでしょう。UIは今、黎明期を迎えているのです。

シンボルロゴのしくみ

九州大学 UI プロジェクトチームは、今回、ビジュアル要素に注目してシンボルロゴの改定、基本ルール作りを行いました。シンボルやロゴタイプといったビジュアル要素は、大学に関わる人にとって目にする機会が非常に多いものです。ビジュアル要素は変化する学生や教職員がひとつのイメージを共有し、アイデンティティを作り出すのに有効なツールになるでしょう。

シンボルロゴについて

シンボルロゴは「シンボル」と「ロゴタイプ」の2つの要素から構成されます。組み合わせは厳密に定められており、使用する状況に合わせて5つのタイプから選択できます。

シンボルについて

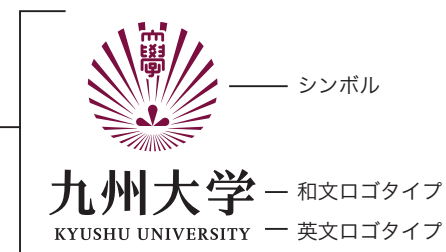
松葉をかたどった円形のマークを「シンボル」と呼び

ます。

ロゴタイプについて

「九州大学」「KYUSHU UNIVERSITY」の文字を「ロゴタイプ」と呼びます。和文はオリジナル書体を新たに作成し、英文はシンボル、和文に合わせて書体を指定しています。

シンボルロゴ
(和英・天地タイプ)



九州大学のシンボル

松を図案化した九州大学のシンボルの歴史は1949年にさかのぼります。同年、学生バッチの図案公募が行われました。図案審査にあたっては、学校側、学生側同数の委員からなる審査会を開いて検討し、松の葉をモチーフとした作品が採択され、1950年2月10日から使用されることになりました。

現在のデザインは、この伝統的なシンボルをより使いやすく、より現代にマッチしたかたちにリデザインし、2004年に商標登録を行い、正式シンボルとして使用しています。



半世紀以上も前に行われた図案公募には、70人の学生から153点の応募がありました。応募作品の題材は、松の木や葉、松かさや樹皮といった松を図案化したものが多く、当時病院地区から箱崎地区まで一面に広がっていた松原が多く、多くの学生の心に残っていたことがうかがわれます。採択された、当時農学部農業土木学科3年だった宗好秀氏の図案も松の葉、実を題材としたものでした。

九州大学のロゴタイプ

ロゴタイプには、和文と英文があります。和文はシンボルの形状に合わせてオリジナルの書体がデザインされています。英文は和文に合わせてオランダの swift という書体が指定されています。九州大学のシンボルと併用する書体は、調和を保つために、つねにこのロゴタイプを用います。

九州大学

KYUSHU UNIVERSITY

和文ロゴタイプは、シンボルマークの松の葉（放射状の部分）のエッジのきいた形状に調和するように制作されました。2つのロゴタイプ案を制作し、アンケート調査を行い、「洗練された」「知的な」といった意見の多かったデザイン案を採択。この案をベースに、さらに九州大学の力強さを表現するために線の太さを調整し、新ロゴタイプとしました。

九州大学のシンボルロゴ

九州大学のシンボルロゴとして5つのタイプの組み合わせを制作しました。5タイプのシンボルロゴは、それぞれ十分検討したうえでシンボルとロゴタイプを組み合わせています。ですから原則として、シンボルとロゴタイプはつねにこのどれかのタイプを使います。

また、シンボルロゴを使用する際、小さく用いると非常に見づらくなってしまうので小サイズ用のシンボルロゴも用意しました→P35

シンボルとロゴの組み合わせ

天地方向

左右方向

ロゴタイプ

和文+英文



なし

和文



九州大学

英文



KYUSHU UNIVERSITY

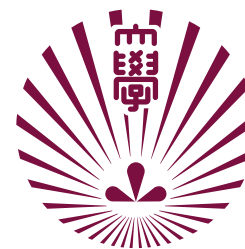
ここでは、5つのシンボルロゴについて詳しく紹介しません。これらのシンボルロゴは、それぞれフォーマルから、よりフレキシブルな使用に適したもので、さまざまな使用シーンを想定してデザインされています。各ページでは使用に適したシーンを説明するとともに、分かりやすくアイコンで示しました。

アイコン凡例



- ①フォーマル度の高さ
- ②使用する印刷物などの言語が和文か英文かの別
- ③紙面上の配置（中央または端）
- ④部局名などとの併記の可否

和英・天地タイプ



九州大学

KYUSHU UNIVERSITY

5つのシンボルロゴのなかで、最もフォーマルなタイプ。和文、英文どちらの印刷物にも使用できます。このタイプは、左右センターの配置が適切ですので、部局などの名称とは離して使用します。

新しいシンボルロゴでは、以前のものよりロゴタイプを大きくし、文字を読みやすくするとともに、三角形のシルエットをつくり、どっしりとした安定感を与えました。

和文・天地タイプ



九州大学

左ページの和文、そして右ページの英文のシンボルロゴは、どちらもややフォーマルなタイプです。和文タイプは、和文の印刷物などに、右の英文タイプは英文のものに使用します。

英文・天地タイプ



KYUSHU UNIVERSITY

どちらも左右センターの配置に適したデザインですので、部局などの名称とは切り離して、独立させて使用します。

和英併記のタイプ (P15) では、デザイン上、どうしても和文に比べて英文が小さくなってしまいます。見方によっては、和文にアルファベットのルビがついているようにも受け取られます。特に国際化を目指す九州大学には、和文のルビとしての英文ではなく、英文がメインの専用のロゴタイプが不可欠であると考えました。また、和文と英文を分けることによって、それぞれの文字が大きく、見やすく表示できるのもメリットです。

和文・左右タイプ



九州大学

さまざまなデザインの印刷物や部局などの名称と組み合わせやすいように考えられた汎用性を重視したタイプです。フォーマルというよりは、自由度の高いレイアウトの印刷物に向いています。和文の印刷物などに

英文・左右タイプ



KYUSHU UNIVERSITY

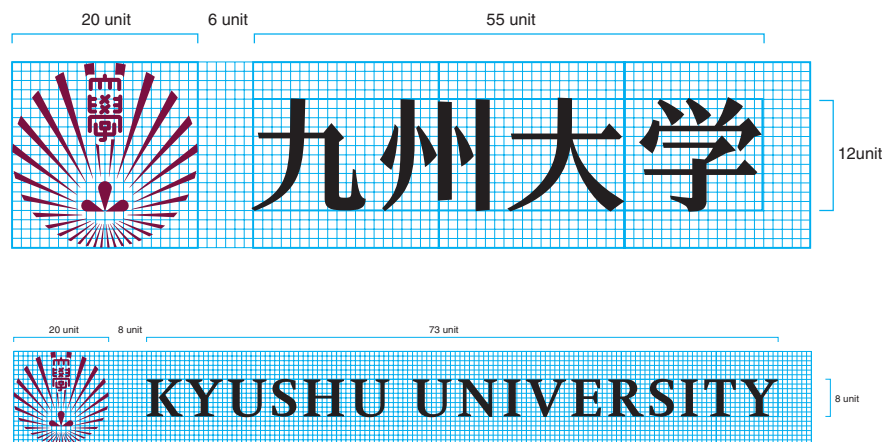
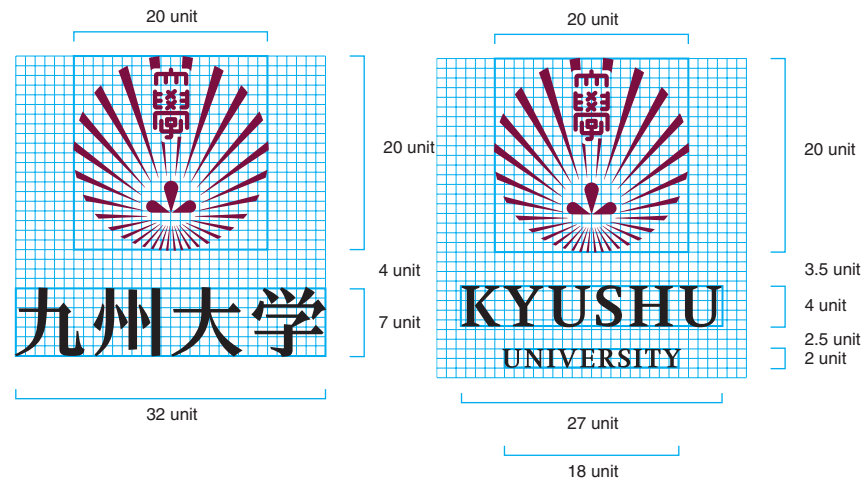
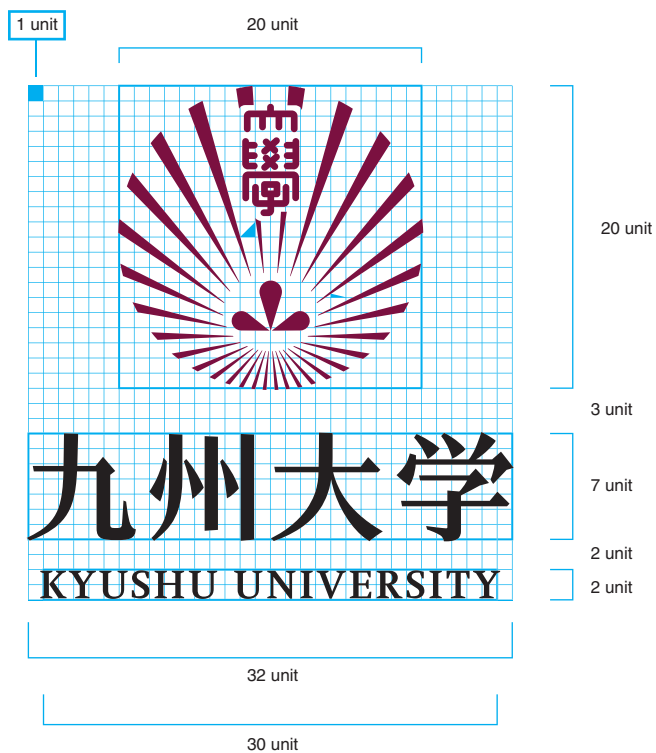
は、左ページの和文ロゴタイプを、英文のものには、右ページの英文ロゴタイプを用います。

紙面の左右どちらかに寄せた配置に適したデザインとなっています。

部局などの名称と組み合わせる場合は、この左右タイプのシンボルロゴを使用します。→ P32

割り出し図

シンボルとロゴタイプサイズの位置は、決まった比率にしたがってバランスよくデザインされています。考え方は、シンボルの直径の1/20を1ユニットとし、これを基本単位としてロゴタイプのサイズ、シンボルとロゴとの間の空間を算出しています。たとえば、下の天地タイプの場合、和文の最大文字幅は32ユニット。ちなみに、シンボルの20ユニットとの比率は5対8となり、ほぼ黄金分割(→P26 欄外)の割合に近い比率となります。



UIカラー

九州大学を象徴する色を「UIカラー」として定めています。シンボルをはじめ、レイアウトなどにUIカラーを効果的に使うことにより「九州大学らしさ」を、時にははっきりと、時にはさり気なく強調することができます。



印刷指定色 (特色)	DIC230
印刷基本4色掛け合わせ	C35 / M100 / Y50 / K35
3Mカラーシート	Nocs51-02
マンセル色表	10RP3/12

ちなみに九州大学の近隣大学の1つである西南大学のシンボルカラーは「テレバルト・グリーン」という緑色です。この色は「青春の色」を表すとともに「松の色」を表しているそうです。西南大学のシンボルカラーも、1934年に公募によって学生のデザイン案が採用されたもので、当時の学生たちの「松」への大きな想いが九州大学ではシンボルに、西南大学ではカラーへと受け継がれているようです。

シンボルロゴへの色の適用

4色またはUIカラーの特色を使って印刷する場合は、シンボルにUIカラーを用い、ロゴに黒を用いる展開が基本となります。

単色の場合には黒やUIカラーだけでなく、ほかの色を用いることもできますが、シンボルとロゴタイプの識別をするために、シンボルの色を薄くしたりせずと同じ濃さで印刷します。



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

単色の場合



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

シンボルロゴの背景色

シンボルロゴを写真の上や模様、色のついた背景の上に配置するときは、なるべく薄い色で無地に近いところに来るようにします。

シンボルロゴの背景色はシンボルカラーに影響を与えない色を選びます。無彩色などは、シンボルロゴの視認性を損なうことなく調和します。

また、背景色がUIカラーや濃い色彩の場合は白抜きが望ましいでしょう。



黄金比について

黄金比とは1:1.61803...という、最も美しいとされる比です。ギリシア時代には「神の比」とさえ呼ばれていたようです。誰もが美しいと思う事から無意識のうちにこの比が形作られていたり、美術品や建築では意図的に取り入れられたりしています。

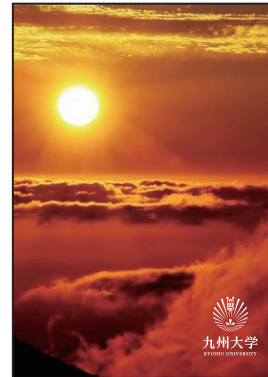
身近な黄金比

また、日常用品の中にもその「美しさ」は生かされています。名刺やクレジットカードの縦横比が黄金比に近いのは有名ですが、世界規模でmp3プレイヤーが大流行させたiPodも黄金比に倣ったデザインがなされています。普段、「格好良い」「収まりが良い」と何となく感じている製品をよく観察してみると黄金比が隠れているかもしれません。

パターンや模様が入った背景色にシンボルロゴを配置するときには、はっきりと見やすいように、なるべく無地に近いスペースを使用します。また背景のパターンを薄くするなど工夫も有効です。



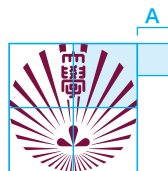
写真の上にシンボルロゴを置くときには、無地に近い部分が背景に来るようにレイアウトします。また、シンボルロゴの背景にあたる部分のコントラストを下げるなどの工夫も効果的です。濃い色調の写真の場合、シンボルロゴを単色にするとすっきりと見えます。



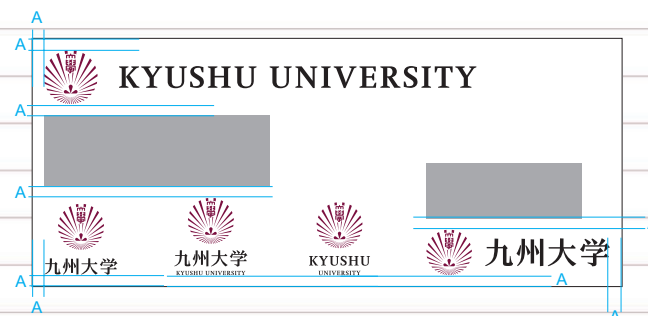
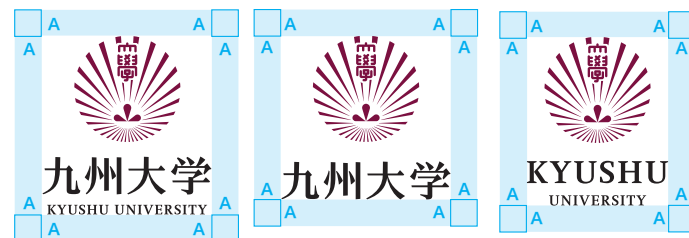
アイソレーション

空間が限られているなどの制約のある例外を除き、シンボルロゴは、余裕のある空間に配置すると効果的です。配置にあたっては、シンボルロゴへの他の要素の干渉を防ぎ、視認性を保つため、周囲のグラフィック要素や紙面の端との間に余白をとるようにします。

このように最小限確保したい余白を決め、シンボルロゴを独立させて配置することを「アイソレーション」と言います。アイソレーションの仕組みは、シンボルの直径の4分の1を最低限必要な余白（A）として算出しています。



利便性のために、最小限確保すべき周囲の空間を含んだシンボルロゴのデータを提供しています。このデータを画像や文字などを重ねずにそのまま使用いただければ、自動的に正しく配置されます。データについてのお問い合わせは九州大学広報室まで。



各部署のシンボルとの組み合わせ

各部署が独自のシンボルを使用する場合は、九州大学のシンボルは用いず、ロゴタイプのみを表記し、その下のレベルに部署シンボルと部署名などを併記します。この場合、九州大学のシンボルロゴは常に左右方向のタイプのものを用います。(→P18, 19)

基本的なルールは、部署シンボルは部署名の隣に、九州大学のシンボルは大学のロゴタイプの横にというように、シンボルとそれを示す文字を近くに置くことです。

部署の名称や住所などの文字は、原則として小塚ゴシック、ヒラギノゴシック、MSゴシックなどの代表的なゴシック体から選び、部署のシンボルと組み合わせます。

縦表記の場合の事例

独自のシンボルを使用しない部署



九州大学

大学院人文科学研究院
大学院人文科学府
文学部

独自のシンボルを使用する部署

九州大学



大学院芸術工学研究院
大学院芸術工学府
芸術工学部

利便性のために、各部署のシンボルと部署名を組み合わせたデータを提供していますので、データをそのままご使用いただければ、ルールに沿った配置ができます。データについてのお問い合わせは九州大学広報室まで。

横表記の場合の事例

独自のシンボルを使用しない部局



独自のシンボルを使用する部局



小サイズ用シンボル

シンボルの直径が 10mm 以下の場合、シンボルのディテールがつぶれて見づらくなってしまうため、小サイズ用シンボルロゴ（小）を使います。

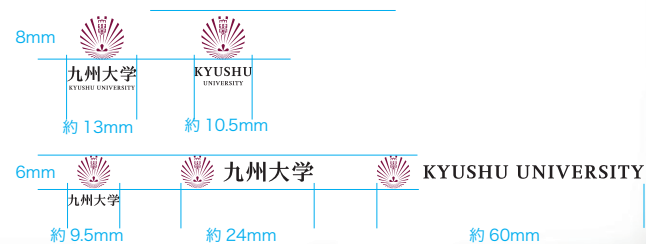
標準シンボル



小サイズ用シンボル



また、視認性を保つため、下のサイズより大きく使います。



小サイズ用シンボルは、可読性を保つためシンボルに組み込まれた「大学」の文字を細くデザインしています。

最小サイズについては標準的な印刷を想定していますので、DTPプリンタやWebページなど解像度の低い環境では可視性、可読性をケースバイケースで考えます。

印刷物でのシンボルロゴの選択と配置

広報誌など、その時々トレンドを取り入れた旬なデザインが必要な印刷物には、次のなかからフォーマル度や使用言語に適したものを選び、ある程度の柔軟な使用ルールを適用します。詳細はマニュアルをご覧ください→P55

和文広報誌などの場合



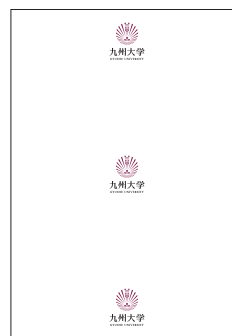
英文広報誌などの場合



シンボルロゴとおすすめレイアウト

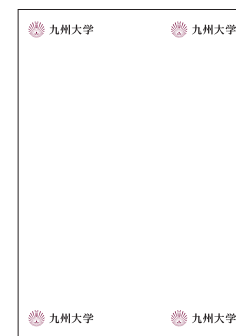
天地タイプのシンボルロゴ

左右センターに配置するレイアウトに適しています。



左右タイプのシンボルロゴ

左右いずれかに寄せた配置のレイアウトに適しています。



シンボルロゴの活用—アプリケーション

これからのページでは今まで説明してきた、シンボルロゴを適用したアプリケーションの事例を紹介します。印刷物などを作成する場合にUIを効果的にアピールする、スマートなレイアウトを考える際の参考にしてください。

各アプリケーションのレイアウトなどの詳細はUIマニュアルに示していますのでご参照下さい。→ P55

封筒

封筒に記載する情報は、大学本部の場合、独自のシンボルロゴを持っていない部局などの場合、独自のシンボルロゴを持っている部局などの場合でそれぞれに適したパターンを選択します。

記載情報

大学本部



九州大学

812-8581 福岡市東区箱崎 6 丁目 10 番 1 号

担当部署・氏名

KYUSHU UNIVERSITY

6-10-1, Hakozaki, Higashiku, Fukuoka-city, 812-8581, Japan

Phone: +81 92 642-

<http://www.kyushu-u.ac.jp/>

Fax: +81 92 642-

独自のシンボルロゴを有さない部局等

3 組織名称



九州大学

大学院人文科学研究院

大学院人文科学府

文学部

担当部署・氏名

812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Phone: 092-642-2773

Fax: 092-642-2778

<http://www.kyushu-u.ac.jp/>

Faculty of Humanities

Graduate School of Humanities

School of Humanities

Kyushu University

6-10-1, Hakozaki, Higashiku, Fukuoka-city, 812-8581, Japan

Phone: +81 92 642 2773

Fax: +81 92-642-2778

1 組織名称



九州大学

大学院言語文化研究院

担当部署・氏名

810-8560 福岡市中央区六本松 4 丁目 2 番 1 号

Phone: 092-726-4555

Fax: 092-726-4511

<http://www.kyushu-u.ac.jp/>

Faculty of Languages and Cultures
Kyushu University

4-2-1, Ropponmatsu, Chuo-ku, Fukuoka-city, 810-8560, Japan

Phone: +81 92 642 2773

Fax: +81 92-642-2778

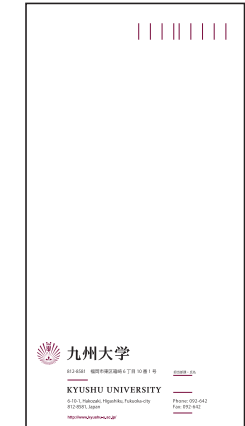
角2、長3、英文それぞれの封筒に記載情報を配置した例の一部を示します。

1. 大学本部

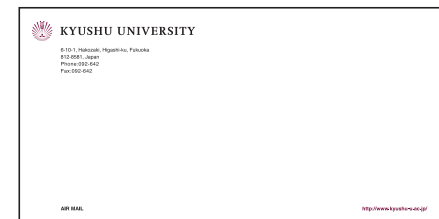
角2



長3



英文



独自のシンボルロゴを有する部局等

3 組織名称

九州大学


 大学院芸術工学研究院
 大学院芸術工学府
 芸術工学部
 郵便部課・氏名

Faculty of Design
 Graduate School of Design
 School of Design
 Kyushu University

815-8540 福岡市南区壺原4丁目9番1号
 Phone: 092-553-
 Fax: 092-553-
<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/>

Shiobaru 4-9-1, Minami-ku, Fukuoka, Japan, 815-8540
 Phone: +81 92 553
 Fax: +81 92 553

2 組織名称

九州大学


 大学院数理学研究院
 大学院数理学府

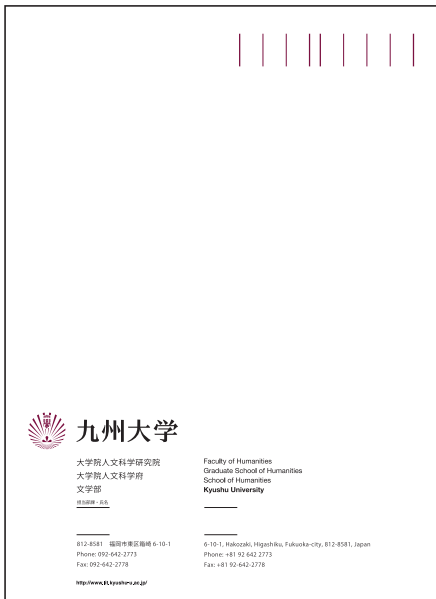
Faculty of Mathematics
 Graduate School of Mathematics
 Kyushu University

812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
 Phone: 092-642-2773
 Fax: 092-642-2778
<http://www.math.kyushu-u.ac.jp/>

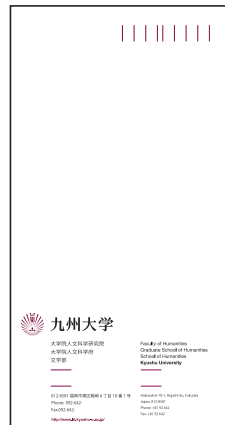
6-10-1, Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka-city, 812-8581, Japan
 Phone: +81 92 642 2773
 Fax: +81 92-642-2778

2. 個別のシンボルロゴを有さない部局等 (3 組織名称)

角 2

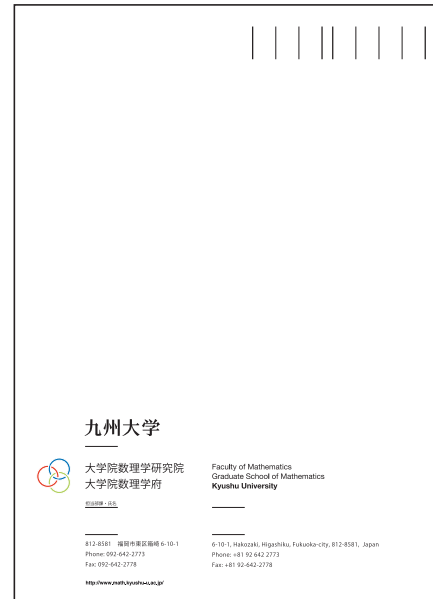


長 3

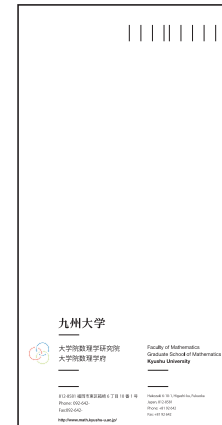


3. 個別のシンボルロゴを有する部局等 (2 組織名称)

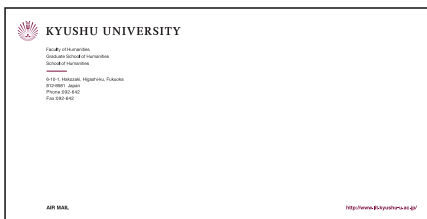
角 2



長 3



英文



英文

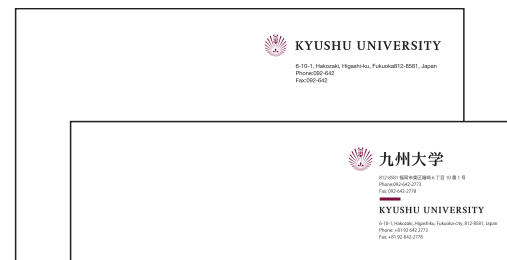


レターヘッド

レターヘッドは、A4サイズで、和文、英文併記のタイプと、英文のみのタイプを示しています。基本ルールは、封筒の表記に準じています。



大学本部



独自のシンボルロゴを有さない部局等



独自のシンボルロゴを有する部局等



名刺

名刺は、組織のアイデンティティを反映させつつ、個人の好みにも対応できるように2つのバリエーションを示しています。

伝統的なタイプ

天地タイプのシンボルロゴを使用した名刺で、縦・横書きの両方に対応します。明朝体も使用でき、オーソドックスで伝統的な印象を与えます。



標準タイプ

封筒と同様に左右タイプのシンボルロゴをベースに展開した、横使いのみのモダンな印象を与える標準タイプの名刺です。



横



縦



大学本部、シンボルロゴを有さない部局等



シンボルを有する部局等



印刷物

冊子などの表紙は以下のガイドラインに沿ってデザインすることで、全体としての統一感を生み出します。

印刷物デザインガイドライン

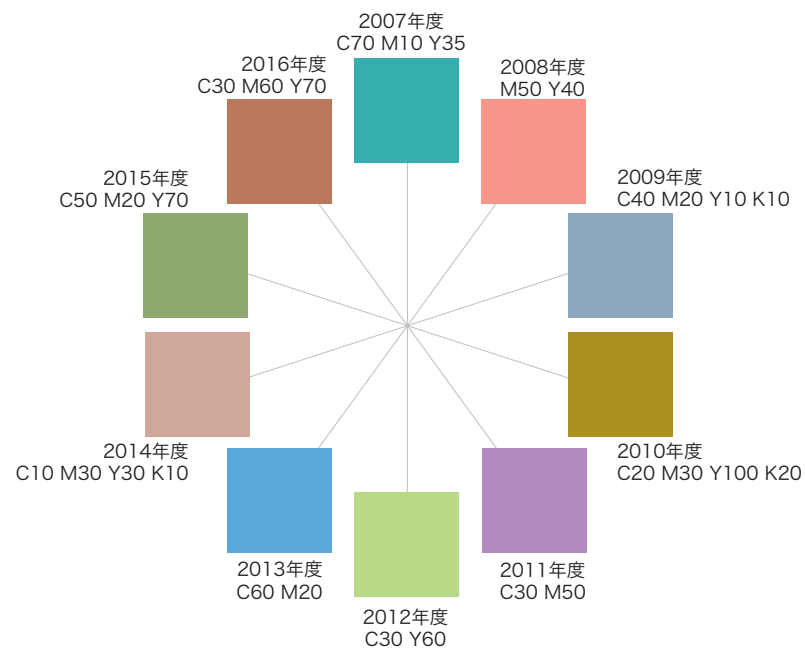
フォーマルとフレキシブル

本文内容によってきちんとした印象が望ましい場合には「フォーマル」、表紙に自由度を持たせ、読者に親近感を与えたい場合には「フレキシブル」のガイドラインに従ってデザインすると良いでしょう。これらのガイドラインは最小限必要なルールを示していますので、事例を参考に自由にデザインを楽しんでください。

	フォーマル	フレキシブル
UI カラーの色面	多い (40% 程度以上)	少ない (40% 程度以下)
シンボルロゴの タイプ	天地タイプの 使用が望ましい	左右タイプの 使用が望ましい
年度カラー	表紙、背表紙に目立つように 配置する事が望ましい	

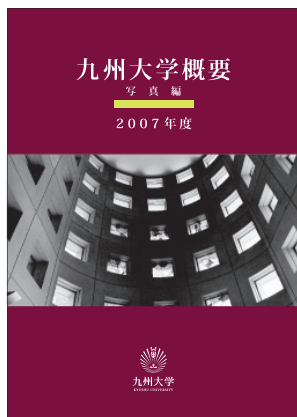
年度カラー

年度毎にテーマカラーを選定しています。これらのカラーを効果的に使用する事によって、より統一感のあるデザインができます。



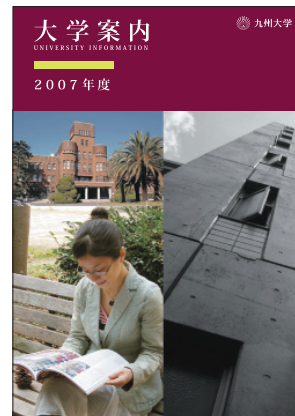
大学概要

全面にUIカラーを配し、和英・天地タイプのシンボルロゴを使用したフォーマルな印象を与えるデザイン。対で発行される印刷物であるため、2冊に統一感を持たせた。



大学案内

UIカラーは紙面の4割以下に抑え、シンボルロゴも左右タイプを使用。レイアウトの自由度を確保しつつ九州大学のアイデンティティも強調できる。



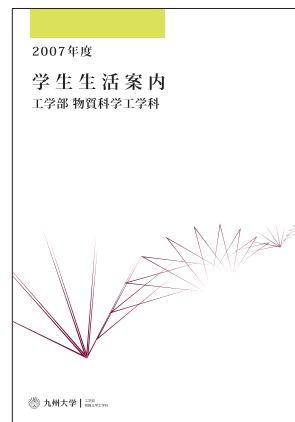
紀要

定期刊行物には年度カラー（例では緑）を用いると効果的。また、UIカラーを使用しない場合でも、天地タイプのシンボルロゴによりフォーマルなデザインができる。

KYUSHU UNIVERSITY ENGINEERING SCIENCES REPORTS vol.27 No.2	九州大学大学院 総合理工学報告 第27巻 第2号
219 Fast Propagation and Slope Control of Membrane Nanostuctures by Using Microwave Heating	219 ○○○○を用いた○○○材料の○○○○と○○○
228 Ocean Model using Cut-Cell Method	228 ○○○を用いた○○○モデルについて
241 Numerical study on Relationship between Long term variation of Asian Dust Storm and Chemical factors	241 ○○○○変動と○○○因子との関連性についての○○○研究
251 Formation of convergent duct bend over western Japan Sea in winter - Numerical experiments on frontal structure in the convergent duct bend -	251 ○○○○に誘われ、○○○○の形成 -○○○○に見られる○○構造についての○○実験-
257	257 学位論文要旨報告
INTERDISCIPLINARY GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING SCIENCES 2007.4	九州大学大学院総合理工学 2007.4

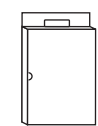
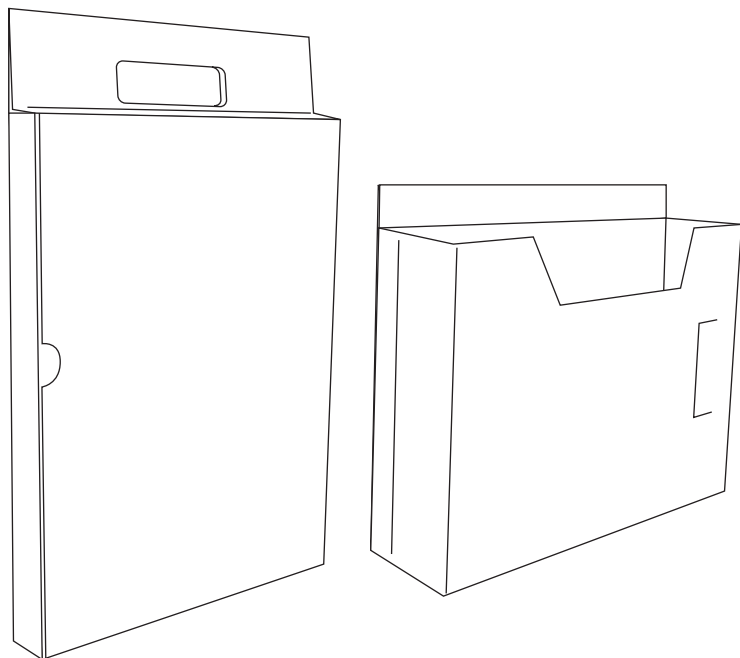
学生生活案内

学生が親しみを感じるように自由なレイアウトを採用。年度カラーやUIカラーをキーカラーとして用いることで、全体的に統一感のあるデザインができる。

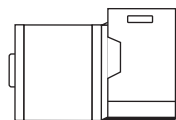


新入生用書類ケース

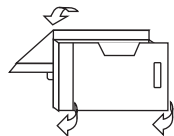
初めて九州大学のキャンパスに足を踏み入れる九大生。入学式の日、さまざまな書類が手渡されます。そんな新入生にプレゼントされるのが、ワンタッチでファイルボックスにもなる書類ケース。九州大学のUIをアピールしながらも自由に楽しいグラフィックで新入生の九大への帰属意識を高めます。



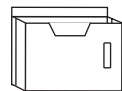
①バッグ型



②フラップを空け裏返す

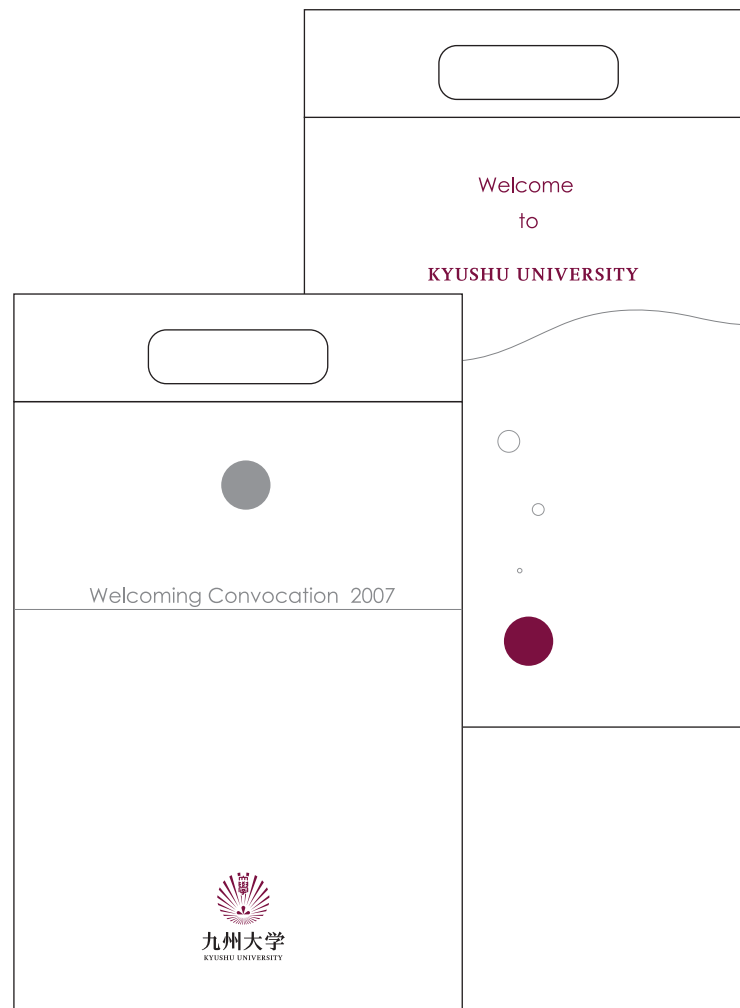


③フラップを裏へ折り込み
取っ手部を手前に引き出す



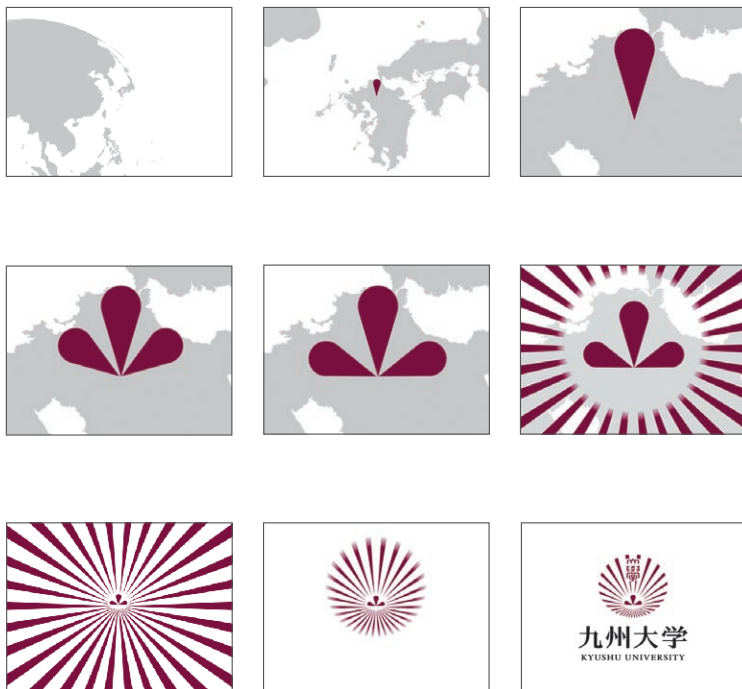
④ボックスファイル型

入学式後に各キャンパスに移動する 3000 人の新入生がみな手にしているバッグは道行く人の目に触れます。このバッグは広告としての役割も果たすのです。そして、入学してからも重要な書類を保存しておくファイルボックスは、いつも机の上や本棚の中で学生生活を見守ってくれます。



シンボルロゴ・ムービー

ビデオやウェブサイトなどのメディアにおいて、動画はますます身近になっています。シンボルロゴに動きと音が付くことで、ストーリーが生まれ、より印象深い表現ができるようになります。アジアから九州へ、そして福岡へとズームイン。九州大学に落ちた松の種は花を咲かせ、大きく葉を広げます。



詳細なマニュアルのダウンロードはこちらから。
www.kyushu-u.ac.jp/ui/manual.zip

UIに関するお問い合わせは、九州大学広報室まで。
koho@jimu.kyushu-u.ac.jp 092-642-2106



九州大学

UIハンドブック

2007年 4月6日

発行

九州大学 UIプロジェクトチーム

執筆 編集 デザイン

池田 美奈子

伊原 久裕

尾方 康弘

印刷

株式会社ミドリ印刷